

## 第64回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

### 1. 開催状況

日時：2025年5月22日（木） 15:00～15:50

場所：WEB会議

出席者：

圓尾 雅則 座長（SMB C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）

安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）

小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 教授）

林 泰弘 委員（早稲田大学先進理工学研究科 教授）

松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）

松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）

岡本 浩 オブザーバー（東京電力パワーグリッド株式会社 取締役副社長執行役員）

國府田 和彦 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部長）

佐々木 邦昭 オブザーバー（イーレックス株式会社 小売統括部長）

高垣 恵孝 オブザーバー（一般社団法人送配電網協議会 ネットワーク企画部長）

鳥居 敦 オブザーバー（東京ガス株式会社 電力事業部 担当部長）

平石 雅一 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）

清水 拓哉 オブザーバー代理（株式会社エネット 経営企画部）

桑原 竜太 オブザーバー代理（電源開発株式会社 経営企画部 ESG・経営調査室 総括マネージャー）

下津 秀幸 オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引監視課長）

小柳 聡志 オブザーバー（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 電力産業・市場室長）

欠席者：

秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）

議題：

（1） 長期脱炭素電源オークション約定結果、および次回オークションに向けて

資料：

【資料1】議事次第

【資料2】委員名簿

【資料3】長期脱炭素電源オークション約定結果、および次回オークションに向けて

## 2. 議事

### (1) 長期脱炭素電源オークション約定結果、および次回オークションに向けて

- 事務局より、資料3に沿って、「長期脱炭素電源オークション約定結果、および次回オークションに向けて」の説明が行われた。

〔主な議論〕

(松平委員)

ご説明いただき感謝する。この資料のうち、13ページ辺りで例えばLNG専焼火力について募集量が、220万kWであったところ、入札量がおよそ130万kWになったところで、もともと募集していた量よりも、下回る結果だったところ、それからもう一つ、上の段の脱炭素電源でいうと、既設火力の改修で、募集上限としてはもう少しあったであろうが、結果的には10万kWの応募であったということで、今年度の容量市場に関する検証にも関わってくるとは感じるが、容量市場というものが長期脱炭素電源オークションも含め、将来における必要な供給力確保、新規の電源開発を含め、それに十分な機能、適切な機能を果たしているかどうかということが大事ではないか。単年度の結果のみを以って判断するのは、いきすぎとを感じるが、一つそのような結果等も踏まえ、逆に期待した募集量に達しなかった原因について、制度的なところになるのか、事業者側でたまたまそのような計画がなかったのかということころは、確認が必要と捉える。そういった背景もあり、今後、国の検討会の中で一部30ページに整理していただいたような論点、一部変更についてご検討いただくことで、リスクのある事業も含め、より検討しやすい環境を整備していくことと考えており、その検討を見守りたいと考えている。また変更がなされるかどうか現時点では決まっていまいだろうが、その結果を踏まえたオークションにおいて更に期待された機能が果たされるかどうかというものも、今後、引き続き見守っていくのかと考える。

(小宮山委員)

ご説明丁寧にいただき感謝する。私からはコメントだが、今回、長期脱炭素電源オークションの約定結果に関して、17ページの発電方式別の落札結果で、比較的、今回は既設原子力の安全対策投資や蓄電池、電力貯蔵技術への約定された量が相対的に大きいという印象を持った次第である。今後も継続的に長期脱炭素電源オークションが行われるわけだが、長期的に現在、長期脱炭素電源オークションまた容量市場において、kW価値に対して報酬が支払われる二つの制度があるわけで、今後、特に電源の新增設、リブレースそうした観点から、また維持についても、容量市場と長期脱炭素電源オークションがどのように利用されるか、その動向をデータを積み重ねながら、分析していただければと考える。そうした動向も踏まえ必要に応じて制度を改良、アップグレードしていく観点が大事と考える。もう一点だが、21ページの容量市場の約定結果と今回の長期脱炭素電源オークション、こちらの相互の結果を踏まえ、調整力についてご確認いただき、大変感謝する。貴重なデータと認識している。2028年度に向けては、基本的には市場の潜在量だが、調整力の必要量に対して基本的に調整機能のある電源の容量が大きく低下することはないとの示唆を与える結果と認識しているが、こちらについては特に今後、今、足元で変動性再エネが恐らく増加基調にあるものと認識している。今後も、このトレンドが続くとすれば、長期的にも調整力のニーズが更に、拡大すると感じ、この調整力の長期的な確保については、こちらの長期脱炭素電源オークションも活用する観点等も、今後必要に応じて検討することが大事ではないかと考える。

(岡本オブザーバー)

ご説明いただき感謝する。3点程コメントさせていただく。1点目、今回、長期脱炭素電源オークションの結果をご報告いただいているが、メインオークションが4年のレンジであり、長期脱炭素電源オークションは、そのレンジを超えた長期的な投資予見可能性を高めるものであると認識している。前回の検討会でも、問題提起させていただいたが、現状、需要が増加するという局面を迎えつつあるなか、4年レンジを超えた長期脱炭素電源オークションの結果を評価する上で、全体

の供給力管理との関係を踏まえた確認や議論がこれから必要になってくると考えており、宜しく願います。2 点目として、約定した電源によって、既にメインオークションが終了している 2027 年度と 2028 年度における、供給力の変化があると捉えており、その辺もどういった形になったかを報告いただくと、供給力の管理としての課題が見えてくるのではないかと考えている。供給力が変化していれば、供給信頼度も変化しており、そういったところも含め再評価もお願いしたい。最後の 3 点目として、今回の結果では、カテゴリー分けがあり、L N G の専焼火力が結局、募集量に満たしていない。現状、需要拡大が想定されるなか、新規の火力が期待できない可能性があるのかと感じ、弊社としては大変重く受け止めている。どういった条件であれば、応札を検討いただけるのかといったところを、発電事業者様等から聞き取りを行っていたら、早期に改善をお願いできればと考えている。

（松村委員）

この委員会のマターではないような気がするが、他の委員会でも同じことを発言しているので、念のために発言させていただく。13 ページの実際の負担がどうなる見込みなのかについて書いていただいているが、とても分かり易く把握しやすい、こういう数字が色々な形で出てくると、負担する側も、負担感が分かり易くなるので、今後もこのような情報の提供をお願いしたい。その上で、還付の結果、実際の負担がどうなったのかは、現時点では勿論出てこないが、将来実需給が始まった後では、そのようなことを是非、どこかの委員会で公表をして欲しい。その時に正しく説明していただいたが、これがマイナスになっているというのは、還付額の方が大きいということであり、消費者の負担がマイナスになっているけれどもリスクも軽減したので、発電事業者が損をしたというわけではないという正しい説明をしていただいたと感じるが、還付額まで考えて、これがマイナスにならなくても、消費者の負担は減ったということは、原理的にはあり得る。仮に容量市場に出てきていたとしたら、稼げた金額も控除して、これでマイナスになるということだとすると、実際の負担額があったとしても、容量市場に出てくればそちらで払わないといけなかったわけなので、消費者の負担は実質的にこの制度によって減ったことになると思う。従って実績のデータを示す時には、今回示したマイナスになる大きなカテゴリーと、容量市場で払われるはずの金額を控除すればマイナスになったというものと、容量市場よりもっと大きな負担を消費者にお願いすることに結果的になったというカテゴリーに分けて、実績を示していただければと考える。その実績が出てきた時に最初に言ったカテゴリーあるいは 2 番目のカテゴリーが、十分多く出てくれば、控除収益の還付制度について、もう少し緩くてもいいという議論が中立者からも出て来うと考える。一方で、消費者の負担が激増したというものばかりになるとその機運は一気に萎むはず。実際どうなったのかを、どこかの委員会で示していただければと考える。

（安念委員）

先程、岡本オブザーバーからもあったご指摘の驥尾に付すだけだが、岡本オブザーバーから 3 点、いずれも非常に重要なご指摘と感じた。とりわけ 3 点目のご指摘、つまり L N G 専焼火力について、募集量と約定総量との間にかなりの開きがあるとのことだったが、この点は私もこうなのだと驚いたとは言いすぎかも知れないが、確かにこれはあくまでもマーケットなので、応札するしないは事業者の自由で、必ず募集量を約定総量が満たさないといけないというものではないと明らかなが、岡本オブザーバーのご指摘のとおり、ここ暫くの間、足元で電力の需要の増加局面が続くとすれば、その増加分を色々な電源で担わないといけませんが、L N G がその主力を担わざるを得ないということは、多くの方が考えているのではないかと、そうだとするとこの燃種において、投資意欲がわからない、投資冥利がないということなのかと感じるが、これは調べてわかることか、わからないが、確かにどうしてこういう開きが出たかについて、何かわかれば教えていただきたい。

（事務局）

様々コメントいただき感謝する。先ず松平委員と岡本オブザーバーからいただいた L N G 専焼火力の低調といったところに関して、事業者の応札行動は、私達もわかりかねるが、理想的にはやはり募集量よりも応札容量の方が多い方が望

ましいという市場だが、そういった中で第3回に向けて制度変更の議論というところが国の審議会でもなされており、具体的には、落札価格のきめ細やかな補正であったり、LNG専焼火力も落札した後に電源全体を、脱炭素化していくということが必要になってくることを考えると、水素アンモニアCCSに関するような制度変更も、応札行動に影響を与えるという考え方もできるので、そういった制度変更も踏まえ、この後どうなっていくかというところだと認識している。また、様々ご意見いただいた中で、容量オークション全体で必要供給力を確保していくといったところで、このオークションがどのように機能しているかといったところのご意見、コメントいただいたと捉え、調整力が充足しているかといった観点であるとか、全体の供給力のカウントの仕方であるとか、そういったところについても、第3回オークションも含め、オークションを重ねながら、実態を把握して、必要に応じて検討していくようなところがあると考えます。最後、松村委員からいただいた他市場収益の還付額の実績値についても、何か公表する方法というところで、コメントがあり、公表方法を含め、関係各所と連携し、検討していきたいと考える。

（圓尾座長）

多くのご意見をいただいたが、国のタスクフォースで議論が進む中で、色々回答が見えてきたということがあると感じ、また追ってご報告いただければと感じる。皆様、色々ご意見いただき感謝する。長期脱炭素電源オークションは、現在、次回オークションに向けて国の審議会でも検討が進められている。次回のオークションに向けて、国の審議会の一つ一つの議論の結果を、募集要綱に反映していく必要があるということで、国と広域機関で連携しながら準備をしていくことになる。また、事業者の皆様に向けた説明会や実務的な業務マニュアルの作成等も、しっかりと準備を進めていくことになる。脱炭素電源の投資を後押ししながら、日本全体の供給力を高めていく取組みになるので、事務局の皆様には、一步一步着実に進めながら次回オークションに向けた制度の詳細化や準備について、宜しく願います。以上で本日の議事は全て終了した。これを以って第64回容量市場の在り方等に関する検討会を閉会する。

以上